

## 資生堂、「ヒュウガトウキ」に血糖値低下と血流速度上昇の効果を発見

資生堂は、セリ科植物「ヒュウガトウキ」(※1)の根に、血糖値を低下し、かつ血流速度を上昇する効果(血流サラサラ効果)があることを発見しました。

ヒュウガトウキの粉碎した根を、Ⅱ型(成人型)糖尿病患者及び血糖値が高い健常者に1ヶ月間摂取させたところ、空腹時の血糖値が有意に低下しました。さらに健常者において、マイクロレオロジー測定装置(※2)による血流速度(血液サラサラ度)測定を実施したところ、ヒュウガトウキの摂取により血流速度が上昇することを見出しました。

現在中高年層を中心に、病気ではないが病気になる一歩手前の症状(「未病」)の時に、病気を防ごうという意識が高まっています。健康関連の商品も、医薬品だけでなく食品にまで多岐に広がっています。今後資生堂は、本技術によって、糖尿病、動脈硬化症、高脂血症などの生活習慣病の予防、さらには未病者へも対応するために、ヒュウガトウキを配合した健康食品等の開発を進めていきます。

※1)ヒュウガトウキ:セリ科の多年性植物で宮崎県が原産。日本国内の他の地域、海外ではその存在が確認されていない。江戸後期より九州地方では民間療法に用いられていたが、近年、改めてその所有する機能が注目されはじめています。

※2)マイクロレオロジー測定装置:幅7 $\mu$ m、長さ30 $\mu$ m、のマイクロチャンネルを8736本並列にしたアレイに血液を注入し、その通過時間を測定して血液流動性をみる装置。(人間の毛細血管を再現したもの)

### ヒュウガトウキの作用と安全性

ヒュウガトウキの血糖値低下作用については、膵臓の $\beta$ 細胞からインスリン分泌を促進するか、インスリン抵抗性を改善して血糖値を低下させる機序が考えられます。

また既にヒュウガトウキの根の抽出物には血管拡張作用を有することが報告されており、今回の試験からも血液流動性の向上が見られたことから、糖尿病が原因で循環障害を起こしている患者では糖尿病性網膜症や腎炎など合併症の発症の予防効果も期待されます。

さらにGOTやGPT、 $\gamma$ -GTPなどの肝機能及び腎機能についても摂取前と摂取後ではほとんど変化が認められなかったことから、ヒュウガトウキの安全性は高いものといえます。

以上の結果から、ヒュウガトウキは、糖尿病疾患及び血糖値の高い健常者に対しての有用性の高い植物であるということが示唆されました。

資生堂では、今後もヒュウガトウキをはじめとした自然由来の生薬の薬効についての研究を進めていきます。

## ヒュウガトウキ 臨床試験結果

1. 実施施設 : 社団法人 北里研究所 メディカルセンター病院  
医療法人 敬天会 東和病院

2. 対象 : 糖尿病患者: 11名(医療法人 敬天会 東和病院)  
健常者: 27名(北里研究所 メディカルセンター病院)

### 3. 実施内容

- ① 糖尿病患者 (試験期間 2002年3月~6月)  
ヒュウガトウキ根粉碎物含有カプセル 1日1gを1カ月間摂取。
- ② 健常者(試験期間 2002年6月~8月)  
ヒュウガトウキ根粉碎物含有カプセル 1日量1gを1ヶ月摂取した群と  
プラセボ群の2群。

### 4. 空腹時血糖値の変化(患者)及び血液流動性の変化(健常者)

